

広報 あかいけ

発行所 赤池町役場 編集 総務課 文書広報係 ☎(代表) 2004
 印刷所 赤池印刷 毎月 1回発行

町の人口

人口	9,474人 (増24)		
男	4,548人 (増9)		
女	4,926人 (増15)		
世帯数	3,040世帯 (減2)		
出生	21人	転入	43人
死亡	7人	転出	33人
(55年9月末日現在)			

() 内は前月との増減



【写真(左上)は御神先の一場面】
 【写真(左下・右)は神戦の一場面】

初めての『上野神楽』が奉納される

若い力が素晴らしい演技を披露 **秋祭り**



10月12日(日)行われた町秋祭りに、各地区より出された山笠見せのハイライトとして初めての『上野神楽』が町民会館前で奉納されました。会館前に集まった大勢の見物者の中で若者たちが日頃の練習を十分発揮し、素晴らしい演技を披露してくれました。この神楽奉納は嘉永7年9月12日、福智下宮祭に社人組合連中によって夜神楽が奉納されました。又、地域伝承者による神楽奉納は明治10年ごろからと赤池町史に記載されています。秋の10月10日、福智下宮祭に必ず奉納された上野神楽も戦後は全くその陰をひそめていましたが、8年前、青年学級に学ぶ若者によって立派に再現することが出来ました。『郷土芸能を通じて郷土愛を未来の若者へ伝承しよう』と、この力が現在も強く生き継がれております。

雨の中で

意気あがる山笠競演 各地区の参加で盛大な秋祭り



【雨の中、出番をまつ山笠】

ことしも町内統一の秋祭りが十月十一日(土)、十二日(日)の両日に行われ、各地区より山笠八台、こども花山十台がそれぞれ出され、笛や太鼓の音で威勢よくまちの中をねり歩くこどもたちのかけ声が一段と響きわたり、盛大に行われた。また、同時に共賛行事も行われ、盛りあがった祭典となりました。

しかし、天候の方はあいにく台風十九号の影響で十一日(土)は午前中より雨となり、午後一時からの山笠の出番はなく、御神体も待ちにまつて雨の中、本宮の若八幡神社を午後三時に出発。同時に各地区でも山笠が出され、お祭り気分もどうにか盛りあがり、夜には七時から中央研修所で生バンド演奏、

奏、舞踊、民謡などの芸能発表も行われ、翌十二日(日)には雨もあがって午前九時過ぎには、町民会館前の広場は山笠や、こども花山の集合で祭り一色となり、この山笠見せのハイライトとして九時半より約一時間、初めて上野神楽が奉納され、お祭りも最高潮に達しました。こども、三年、後継者不足に苦しんでいましたが、小学生、中学生の加入によって一気に好転し、日頃の練習を十分発揮し、その若い力が素晴らしい演技を披露してくれました。

このあと、十時半山笠出発。ことしは山笠八台(八区、十二支所、十区、伏原、十九支所、町営伏原、上の原、高尾・十七支所)、こども花山十台(板屋団地、二十支所、猿畑、十一支所、十二支所、十四支所、高尾団地、十八支所、小藤団地、西町)が出され、

まち中を各山笠が次々と威勢よくねり歩いて華を添えました。午後四時ごろから再び雨となりましたが、お祭りも終日とあって雨の中で意気あがる山笠競演が行われました。

ことしも、お祭り対策協議会で各地区関係者の方により準備がすすめられ、このように盛りあがった祭典となりましたが、年々、地域社会(コミュニティ)の盛りあがりから、秋祭りも盛んになってきております。

なお、同日午前九時から町民会館において囲碁大会が十五人の参加で行われ、市場の白川幸太郎さんが優勝。同夜、七時から中央研修所で行われた「のど自慢大会」では十七人が参加し、審査委員の



【町民会館前を出発するこども花山】



【上野神楽、御神福の一場面】

投票結果、市場の長谷川京子さん(花街の母)が優勝しました。また、各地区でも独自でそれぞれ「のど自慢大会」や「踊り」などの多彩な催しものが行われました。

第7回赤池町少年剣道大会

とき 11月9日(日) AM 8:30
 ところ 赤池町民会館体育館
 参加 小学生1年~中学生3年までの男女
 実質の筑豊大会(参加者数約500人)

- ☆ 今月のこよみと行事
- 和名 霜月(しもつき)
 霜がしきりに降るので、霜降月それを略して霜月という。
- 1日(土) 心配ごと相談日(福祉センター)
 - 2日(日) 燈台記念日 自衛隊記念日 教育文化週間
 - 3日(月) 町文化祭(4日まで)
 - 4日(火) ユネスコ憲章記念日
 - 7日(金) 心配ごと相談日(福祉センター)
 - 立冬
 - 8日(土) 国会議事堂落成(S11)
 - 9日(日) 養命大学(町民会館)AM10時
 - 11日(火) 第七回町少年剣道大会 税を知る週間 世界平和記念日
 - 15日(土) 七五三祝い
 - 17日(月) 心配ごと相談日(福祉センター) スエズ運河開通
 - 19日(水) 一茶忌 農協記念日
 - 21日(金) 婦人学級(会館)PM1時
 - 22日(土) 小雪
 - 23日(日) 勤労感謝の日 農業祭 ふみの日
 - 26日(水) 秋の全国火災予防運動 はじまる
 - 27日(木) 心配ごと相談日(福祉センター) ノーベル賞制定(M34)
- ▼堪忍は無事長久の基▲

秋晴れの敬老会で

長寿を祝う

「881人が該当」 町人口の約1割近くが……

「おじいさん、おばあさん、いつまでもお元気で……」

赤池町敬老会が、秋晴れの十月十五日(水)午前十一時から町民会館体育館において、お年寄りの長寿を祝いました。

今年七十歳以上(明治四十四年三月三十一日までに生れた方)の八百八十一人が招待され、式典では香月章町長より「本日、敬老会をお迎えになったみなさま、おめでとーございます。日本は今、世界でも一番の長寿国となっております。



今後とも健康に十分気をつけていつまでもお元気で長生きしてください。」とお祝いの言葉がおくられ、このあと米寿を迎えた九人(代表堀辰野さん)と、八十歳以上(代表堀辰野さん)の二百七十七人(代表香野繁蔵さん)のお年寄りに、県知事表彰の金杯とバスタオルの記念品が、町長より贈られました。また、今年より新しく九十歳以上の七人(代表太田彦市さん)のお年寄りに町長表彰が、そのほか七十歳以上の八百八十一人(代表町老人クラブ連合会々長大森高市さん)に町より記念品が贈られました。最後に町内最高齢者(大字上野上谷)の世良馬吉さん(九九歳)にその長寿を祝し、町議会より議長表彰が早麻豊議長より贈られました。

このあと会食とアトラクションに入り、赤池、中尾、市場、上野の四保育所の園児たちにより「小



【保育所園児たちによる音楽】

民謡と舞踊、老人ホーム職員とお年寄りに「赤池小唄の踊り」のほか、中村シズカさん(岩屋組)の踊りや、立花ムメノさん(市場)、志水光則さん(上谷)、近藤敦子さん(常福)、松葉隆男さん(常福)、赤星重雄さん(松本)の「詩吟」、手銭礼子さん(山崎)、立花敏幸さん(猿田)の「民謡」など、バラエティーにとんだ出しものに弁当を食べながら楽しむお年寄りがより盛んな拍手がおくられていました。

また、お年寄りの中から木村由夫さん(市場)、木本ハツエさん(下寿)、出羽オコイさん(中町団地)のど入りもあり「浪曲、

お年寄りの声

インタビュー 広報係

民謡、歌謡曲」と素晴らしいのどを聞かせてくれました。

なんと、いつても演芸進行役の当町猿田の立花敏幸さんの名司会はこのアトラクションをいっそう盛りあげてくれました。フィナーレは全員で「炭坑節」を踊るなど楽しい敬老会の一日でした。

《敬老会該当者年齢別数》

- ▼七〇~七九歳 六五五人
- ▼八〇~八九歳 二一九人

計 八八一人

▼九〇歳以上 七人

計 八八一人

▼九〇歳以上「七人」 敬称略

- ▼世良馬吉 九九歳 上谷
- ▼武末ヒサ 九六歳 下町二
- ▼太田彦市 九五歳 上里二
- ▼香野繁蔵 九三歳 堀田
- ▼太田源次 九一歳 原
- ▼松尾タツ 九一歳 高尾二
- ▼青木ミエ 九〇歳 高尾二

問— いま幸せですか。
 答— 幸せです。(ほとんどが)

問— それはどんなことですか。
 答— ①健康であり、家庭的にも恵まれている。②町の老人生活がい対策にしている。③一人暮らしであるため楽しみはない。

④敬老会に毎年こられる。

問— 健康方法はどんなことをしていますか。
 答— ①朝早起きして軽い体操をしている。②暴飲暴食をしない。③何か小さなことでも体を動かすようにしている。④気を若くもつ。⑤旅行をする。⑥あまり無理なことはしない。⑦鼻から口へ水をとおしている。⑧毎日、医者に通って健康ではない。質問— 長生きしてよかったことは何んですか。

問— これから役場にやってもいいですか。
 答— ①体が年々おとろえている。②病気のたまたかい。③すべてが不自由になった。

問— これから役場にやってもいいですか。
 答— ①このままでよい。②近いところに役場があれば。③年金がもう少しあがれば。④一人暮らししてとても不安。⑤もつとあたたかみがほしい。⑥とても感謝している。

(このように、敬老会当日、お年寄りの何人かに意見をお聞きしたのを集約しております。)
